

2025年3月期 決算説明会 Q&A（2025年4月30日開催）

Q1. アメリカ向け輸出事業における関税の影響は？

A1. 関税は基本的にサーチャージとしてお客様にご負担いただく方針です。また、関税への対応検討のため一時的に米国向けの出荷を見合わせておりましたが、現在すでに再開しております。状況が日々変化しているため、様子見をされているお客様もいらっしゃいますが、設備投資については当初より計画されていた大手ユーザ様を中心に着実に進められると見ています。従って業績への影響は軽微と見ていますが、関税率が上昇した場合には必要に応じ改めて対応を検討いたします。

Q2. 中国、インドの受注環境は？

A2. 中国では、建機・農機などインフラ関連の投資が拡大基調にあり、新エネルギー車関連の投資も引き続き堅調に推移しています。また、2025年度は電子部品向け設備の買い替え需要が見込まれています。インドでは、昨年から増加している航空機関連や半導体製造装置関連に加え、スマートフォンなどの電気・電子部品関連や自動車関連の引合も増加傾向にあります。

Q3. 中国やインドでも、半導体製造装置関連などの精密加工向けには欧州メーカや日本メーカの工作機械が使われているのか？

A3. 欧州や日本のメーカ以外の工作機械も使われていますが、更なる効率化や次世代に向けて精度を上げる必要がある場合など、お客様が加工する対象物の要求等に応じて欧州メーカや日本のメーカの機械を選択されていると認識しています。現在達成できていない課題に対応するため、当社の機械を選択していただいていると認識しています。

Q4. 総還元性向の目標を平均 35%～45%から平均 60%に引き上げた背景は？

A4. 営業キャッシュフローに加え、CCC（キャッシュ・コンバージョン・サイクル）の改善や政策保有株式の縮減、設備投資計画を含めた資金計画をベースに環境の変化に対応し総還元性向の目標値も変更しています。

本資料に記載いたしました将来の業績に関する見通しは、公表時点で入手可能な情報に基づく将来の予測であり、潜在的なリスクや不確定要素を含んだものです。

そのため、実際の業績は、さまざまな要因により、記載された見通しと大きく異なる結果となる可能性があることをご了承願います。

実際の業績に影響を与えうる重要な要因には、当社の事業を取り巻く経済情勢、社会的動向、当社の提供するサービス等に対する需要動向による相対的競争力の変化等があります。なお業績に影響を与える重要な要因は、これらに限定されるものではありません。